

富山県民生涯学習カレッジ運営会議について

1 運営会議の概要

(1) 設置目的

生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項の調査研究

(2) 審議事項

生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項

(3) 委員名簿（五十音順）

石澤 宣子（高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所長）

奥野 達夫（南砺市福光美術館長、砺波地区センター運営会議会長）

尾山 敦子（県民カレッジ自遊塾県民教授）

金井 進（県生涯学習団体協議会会長）

黒田 卓（富山大学人間発達科学部教授）

佐藤 登（県経営者協会専務理事）

重原 達雄（公募委員）

竹内 洋子（県民カレッジ友の会「雷鳥会」運営委員）

立浪 勝（富山大学芸術文化部教授、高岡地区センター運営会議会長）

長堀 育子（県PTA連合会副会長）

中村 啓志（県公民館連合会事務局長）

原 洋子（県婦人会理事）

武藤 憲夫（富山国際大学子ども育成学部教授、新川地区センター運営会議会長）

結城 正斉（射水市教育長）

2 これまで開催した会議の概要

◇平成24年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議

(1) 開催日時 平成25年2月21日（木）10:00～12:00

(2) 開催場所 富山県教育文化会館4階403号室

(3) 議 題

【報告事項】

①平成24年度事業について

②各地区センター運営会議での審議状況について

③富山県民生涯学習カレッジ富山地区センターの開設について

【協議事項】

①平成25年度事業計画について

(4) 会議資料

・平成24年度事業について

・平成25年度事業計画について

平成 24 年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議 議事概要

- 1 日 時 平成 25 年 2 月 21 日 (木) 10:00~12:00
- 2 場 所 富山県教育文化会館 4 階 403 号室
- 3 議事等 内容は概ね以下のとおり

(学長挨拶)

先般は、各地区の県民カレッジ運営会議において、貴重なご意見をいただき感謝している。本日も地区センターも含めた県民カレッジのあり方について、忌憚ないご意見をお願いしたい。

県民カレッジでは、懸案事項であった富山地区センターが 4 月に開所し、4 つの地区センターが揃うことになる。地区センターのあり方や本部との連携のあり方をもう一度見直す時である。今日、広く生涯学習社会といわれている中でベビーブーム世代の参加が少なく、若い人の参加も少なく、学びあう仲間が増えない。これからの生涯学習社会のあり方も含め、ご意見をいただきたい。

(次長挨拶)

日頃から諸事にお世話をいただき感謝申し上げます。本県の生涯学習を担う県民カレッジのあり方については、今後富山地区センターの開所により、機能やその分担をどのようにしていくか見直していきたい。来年度もふるさと教育やボランティアの育成に取り組むつもりである。これからの運営のあり方等ご意見をいただきたい。

事務局から出席委員及び事務局職員の紹介

中村委員の議事進行により事項協議、質疑応答

(進行)

では、「平成 24 年度事業報告」を事務局からお願いしたい。

(事務局)

説明

(進行)

次に、各地区の運営会議の審議状況をお願いしたい。

(委員)

新川地区センター運営会議より、

高校生とともに学ぶ特別講座の評価はとても高く、講座数を増やすことを考えている。若年層の参加を増やしたいが、40 代、50 代は仕事が忙しく、やはりターゲットは 60 代以上となる。受講者を増やすためには、講座内容を見直すことや広報を充実させることが必要である。例えばショッピングセンターに広報紙を置くことや、親子教室については児童センターに配布するなど工夫する。

(委員)

高岡地区センター運営会議より、

企画段階から一般の方に参画型していただき、食や安全などをテーマに講座内容を工夫し実施している。

30代、40代、50代の参加はとても難しいが、公民館や地域回覧などで広報に努める。特別講座は社会人にとっても高校生にとっても、とても良い講座である。講座の修了基準、単位認定基準について意見があった。

(委員)

砺波地区センター運営会議より、

小矢部、南砺、砺波3市のほぼ中心にあるので参加者は集まりやすく、和気藹々と話せる雰囲気が地区センターにはある。公民館や市町村との連携は定着している。この地区は文化財や人材も多いので活用を考えたい。北陸新幹線の開通に関して、ふるさとの魅力を伝えていくことや、ふるさとの力を磨いていくことが求められている。

(進行)

ご質問、ご意見等は、のちほど併せてお伺いしたいので、「富山地区センターの開設について」事務局からお願いしたい。

(事務局)

説明

(進行)

引き続き、関連して「平成25年度事業計画について」説明をお願いしたい。

(事務局)

説明

(進行)

それでは、これまでの説明を踏まえ、意見交換をしたい。

(委員)

話題提供になるが、雄峰高校にある3つの同窓会が富山地区センターを応援しようとする動きがある。

(委員)

今度新しく地区センターが開所するが、滑川市の方はどちらへ行けばいいのか。

申込みについて思うことだが、受講希望者に受講料がとても安いことを周知しているのか。

広報のパンフレット等は、保育園や小学校から子どもを介して渡すことが有効的と考えている。

(事務局)

富山、新川どちらでもよい。受講料は各センターだよりによりしっかりと明記したい。

(委員)

自遊塾はボランティアで行われており負担金は安くなっているが、質の低い講座ではない。学びがないと伝えることができないものと感じている。観光ボランティアとの関わりから、県民は話し下手なのかなと感じていて、客に伝えるために学びによる進化が求められる。

(進行)

県民は遠慮深いということか。

(委員)

企業の立場からお話させていただくと、およそ2人に1人が転職する。したがって企業側は、非正規を

雇用している状況である。生産年齢は上がり、定年はいずれ70才の時がやってくる。

近年、メールで連絡を取り合うことが多く、会話をしないためコミュニケーションができない。地域でのふれあいや、コミュニケーション能力を育てることも県民カレッジの役目ではないか。

各自が必要とする講座なら、お金を出しても講座に行く。広報については、社会の情勢から紙ベースのものより、ネットによるものが有効ではないか。

(進行)

ニーズ調査はしているのか。

(事務局)

平成21、22年に行っている。

(委員)

大学生にはキャリア教育において、生涯学習の意識を論しているところだが、社会情勢からかその意識は薄い。近年のネットには問題点も多いが、「とやま学遊ネット」や「映像ライブラリー」のようなネットはとても意味ある発信である。ただ、県内の人は知らない、県外の人が意外と知っている。例えば、ユーチューブから誘導することも手段かもしれない。

(委員)

人によっては介護や孫のお世話で、出にくい状況もある。やっぱり近いところで講座があれば良い。最近、健康志向が強く講座の有効なテーマとなっている。

(委員)

年代ごとに求めるものが違うように感じる。雷鳥会では5回の機関誌を発行しており、県民カレッジの講座を広く伝えていきたいと考えている。

(委員)

新川地区センターは開所当時より充実してきたと思う。生涯学習は自分が主体となって楽しむものであり、いろいろな形があると思う。その中で県民カレッジが担う役割は一部分と考える。公民館がコミュニティーセンターとして市民協働の場となり、ふるさと学習が進められる場となるのではないか。

学び伝えるという生涯学習のサイクルは、とても重要な部分である。

(進行)

いろいろ貴重なご意見、ご提言ありがとうございます。

NHKのEテレを公民館で流したら人でいっぱいになったという話を聞いた。物事をフレキシブルに考えることが生涯学習には必要ということか。公民館活動が停滞する地域では、住民を講師にしてしまう(～名人)という方法を聞いた。

(学長)

各委員から貴重なご意見をいただいた。これからも県民カレッジのあり方を検討したいのでご協力をいただきたい。生涯学習は人のつながりを求めていく活動ではないか。そのことに支援の手をさしのべることが県民カレッジの役割であり、県民の期待するところではないか。

本日は短い時間であったが、内容は濃いものであった。重ねてお礼を申し上げます。

以上閉会。